石川病薬ニュース

石川県病院薬剤師会会報

令和6年（2024）/7.31発行　No.186

CONTENTS

・巻頭言
・第74回 石川県病院薬剤師会定例総会
・学位取得者紹介
・学術研修会
・委員会報告
・となりの薬・薬連携物語
・他都道府県病薬会誌寄贈一覧
・南船北馬
・寄稿



〔巻頭言〕
令和６年能登半島地震を経験して　市立輪島病院　村田　航一…… 1
〔第74回　石川県病院薬剤師会定例総会〕 …… 3
総会報告 …… 3
令和５年度事業報告 …… 5
令和５年度決算報告・会計監査報告 …… 16
令和５年度専門薬剤師等支援事業　助成申請者一覧 …… 17
令和６年度事業計画 …… 18
令和６年度予算 …… 19
〔学位取得者紹介〕
ヒトにおける特発性肺線維症薬ニンテダニブの代謝を担う酵素の特徴付け
金沢大学附属病院　立中　志門…… 20
〔学術研修会〕
令和５年度第１回（通算第173回）学術研修会　公立松任石川中央病院　天谷　毅…… 24
発表者報告
Delirium team Approach Program（DELTAプログラム）が精神科用薬の処方動向に与える影響
金沢医科大学病院　本野　芽衣…… 26
当院における化学療法施行時のB型肝炎ウイルス検査の実施状況・課題への取り組み
JCHO金沢病院　高田　尚子…… 28
病棟からの問合せから考える注射薬配合変化防止対策の検討
金沢市立病院　稲口　舞子…… 29
調剤支援システム導入による調剤インシデント発生防止効果とその分析
金沢大学附属病院　加藤　美咲…… 31
200床未満の回復期・慢性期病院における薬剤師みえる化への取り組み
映寿会みらい病院　中島　久徳…… 33
当院における薬剤総合調整加算の算定状況とその取り組み
公立松任石川中央病院　天谷　毅…… 35
事前指示に基づく病棟在庫薬使用に伴う薬剤師の業務負担軽減および薬剤適正使用の可能性
金沢大学附属病院　古賀友梨香…… 37
石川県臨床薬剤師のための卒後教育研究会（ISPEC）の活動報告
金沢医科大学病院　西田　祥啓…… 39
〔委員会報告〕
精神科治療委員会　石川県立中央病院　台蔵　剛士…… 41
〔となりの薬・薬連携物語〕　恵寿総合病院　室宮　智彦…… 43
〔他都道府県病薬会誌寄贈一覧〕 …… 44
〔南船北馬〕 …… 46
〔寄稿〕「古寺との結縁-63」実性院・全昌寺・善徳寺（城端、金沢）～結縁暖簾で結縁～
院瀬見義弘…… 47
〔編集後記〕
〔病薬ニュース発行欄〕

表紙写真　撮影
：熊走　尚志

金沢城公園

石川門から入ると三の丸広場の奥に五十間長屋が見える。その左手に橋が架かっており，渡ると橋爪門を抜けて二の丸広場へと。その左奥には三十軒長屋、その奥に本丸へと。
写真は五十間長屋の昼と夜（ライトアップ）

巻頭言

令和６年能登半島地震を経験して

市立輪島病院　医療技術部　薬局　薬局長　　村　田　航　一

このたびの震災で被害を受けた全ての方々に心よりお見舞い申し上げます。

私は1995年の阪神・淡路大震災をはじめ大きな地震を何度か経験してきましたが、全く慣れることがありません。今回の震災が１番何も出来なかったように感じます。

元日の夕方、家族とくつろいでいた時、突然今までに経験したことのない激しい揺れに襲われました。しゃがんで揺れが治まるのを待つことしか出来ず、実際には数十秒の事だったのでしょうが体感では５分程度揺れが続いたように感じました。

家族を高台に避難させ徒歩で病院へ向かうと、院内は停電し非常用電源が作動、電話回線使用不可、断水・漏水、エレベーター停止、電子カルテ使用不可という状況でした。

薬局内は内服薬が散乱しシロップ剤や注射薬が割れてベトベト、錠剤分包器が倒れて分包不能、薬品冷蔵庫も倒れて使えなくなり、多くの冷所保存の薬品を廃棄せざるを得ませんでした。

まずは輸液や緊急薬をかき集めて患者さんに対応しましたが、医薬品は何とかなっても、輸液セットやガーゼ・縫合針などの衛生材料が不足、ある場所はわかるがたどり着けないなど苦労しました。

自衛隊やDMATの到着後は救急の重症患者や入院患者、透析患者の搬送・転院の調整が始まり、対応に追われました。処方薬の情報がカルテのコピー程度しか付けられず受け入れ先の病院の先生には申し訳なく思っています。余震のためエレベーターに閉じ込められる可能性があったため、患者さんを一人ずつ階段で降ろす必要がありました。また、停電のため在宅酸素療法が出来ず、搬送するための酸素ボンベの在庫が足りなくなり、自衛隊や県に調達をお願いしました。

敷地内の調剤薬局が２日の午後から開局してくれて当院と手分けして調剤に当たりました。近隣の調剤薬局も８日から徐々に開局していき、モバイルファーマシーも全国から駆けつけてくれて調剤をしてくれました。初めてモバイルファーマシーを見たときは安心感から涙が出たのを覚えています。災害支援薬剤師も院内に派遣していただき、この頃から少し余裕を持てるようになりました。

避難所からの処方依頼に対応していましたが、当院の患者さんであれば電子カルテで処方内容を確認し調剤出来たのですが、他院やクリニックの処方内容は確認がままならず苦労しました。お薬手帳を持っている人は少なく、普段持っている人でも自宅が倒壊して取りに行けない、火災で燃えたといった

人が大勢いました。電話で確認しようとしても不通、通じても電子カルテが故障しているなど確認に難渋しました。自衛隊や保健師が処方内容を聞き取ってノートなどにまとめてくれていたのですが、用法用量の記載が無いものが多く、「○○医院の血圧のクスリ」との情報のみの事もあったので、急遽市役所や避難所のスタッフと連携して統一様式を作成し、震災特例のオンライン資格確認などを利用して情報を集めました。

苦労して調剤し薬を避難所に届けたところ、県外や１.５次・２次避難所へ移ったため、「もう必要ありません」と戻ってきた事も度々あり、無力感を感じました。

他院の処方を事後入力する際には院内未採用の薬品マスタをどうするかという問題が生じました。一つずつ作成するのは困難であったため【院内未採用薬品（錠剤）】というマスタを作成し、実際の薬品名はコメント登録で入力する事としました。事後入力に当たっては災害支援薬剤師の先生方に大変お世話になり感謝しています。

患者情報や医療資源が限られ、マニュアル通りには行かず臨機応変に対応せねばならないため、「人間力」「薬剤師力」が試される事となりました。

当時当院では実務実習生を１名受け入れていました。年内に基本的な実習を終えて年明けから病棟の患者さんを担当してもらう予定としていたところの震災でした。

連絡を取り「落ち着くまでは実習は延期」と伝えると、「行かせてください」との力強い返事でしたので実習継続としました。あまり指導は出来ずにバタバタしているところを見てもらうばかりでしたが、全国から来た災害支援薬剤師の先生方とお話が出来たのは非常に良い経験となったと感じています。

卒業後はぜひ当院へ来ていただいてDMATの一員として活躍して欲しいと期待しています。

生活面で１番苦労したのはやはり水でした。上下水道が使えず、トイレ・手洗いもままならず全国からの給水車やトイレトレーラーなどにお世話になっていました。

この原稿を書いている５月下旬においても余震が続き、避難所生活をしている方も大勢います。１日も早く平穏な日々が訪れることを願っています。

今回の震災で支援いただいた方に、そしてこれからも能登を応援してくれる全ての方に心より感謝して巻頭言とさせていただきます。

今後とも輪島を、能登を応援よろしくお願いいたします。